

快適性や自律性など目標

豊橋まちなか会議 新ビジョン発表

豊橋市中心街のにぎわいづくりに取り組む「豊橋まちなか会議」は24日、

駅前大通2の再開発ビル「エムキャンパス」前で「駅前大通地区まちづく



広場の来場者にビジョンを示す会議
メンバー＝エムキャンパスで

りビジョン」の発表会を開いた。隣接するまちなか広場の来場者に3年間で実施するアクションプランを説明した。

ビジョンは2011年に作成したが、周辺の再開発に伴う環境変化を踏まえて3年間かけて改訂した。この日はビル玄関前のピロティーで映像を使って説明した。

新ビジョンは市名にちなんで「豊かな橋を架けるまち」をコンセプトとした。まちなかの快適性や自律性などを掲げた三つの目標像に、九つのシナリオと25の具体的なテーマを設けた。再開発ビルに隣接する水上ビルの活性化と継承をテーマにした取り組みもある。

同時に向こう3年間の

指針となる「アクションプラン2024」で「学生」拠点「リノベーション」「公共空間」の4分野で14プロジェクトを掲げた。学生向けのシェアハウスなどを整える住宅供給のほか、空き家や空き店舗の活用、新しい形の自治会づくりなどハードと

ソフトの両面で利用者や住人が主体的に降り組むという。

会議事務局の小川直哉さんは「まちなかの様子は時間とともに変わるため、将来的な状況を踏まえた改訂で最適なものをつくりたい」と説く。

【加藤広宣】